

筑波山へは
シャトルバスで
つくば駅発

関東鉄道株式会社
029-822-3710

第3号

すそみろく

筑波山の山麓一帯を「すそみ」と名づけました

第3号(平成19年4月30日)
発行・すそみろく編集委員会 TEL029-863-5151(NPO法人つくば環境フォーラム内)

入澤さんは、太古からの歴史が集

六所に赤シャツの猪がやってきた
猪年の入澤美時さんは赤いTシャツがトレードマーク。六所の民家を直そうと考えたきつかけは、建替えが決まったマンションを出ることになったところからはじまります。

雑誌の編集長を長く務める入澤さんの部屋には一万冊を超える本がぎっしり。本の棲家(?)を探しているとき、折よく旧知である筑波大の安藤邦廣さんから「見せたい空き家がある」と聞き、つくばに足を運びました。茅屋根にはぼっかりと大きな穴があいていました。柱や梁組みの簡潔で力強い構造に感激。そして何より、この筑波山の懐に抱かれたすそみの風景に心惹かれました。都会の真ん中でエネルギーシユに仕事をこなしながら、ふとしたときに東京からほど近いこの「六所の家」で本を読んだり、友人を招いたり、仕事をしたり、とすそみらしい生活を送りたい。入澤さんは、太古からの歴史が集

蘇る古民家

よみがえ

茅葺き民家を再生する入澤美時さん

茅葺き奮闘記

日本でも高い技術を誇る筑波茅手により、「六所の家」の屋根は葺き替えられた。材料はほとんど入澤さん達が集めたもの。

9月 ワラ集め 近くの農家の田から1反5畝分の稲ワラを集めた。慣れない中腰作業で、翌日からうまく歩けない程の筋肉痛に見舞われる。

10-1月 竹伐り 敷地から真竹を、近隣から篠竹を200本ずつ伐る。大雨に降られ、みな頭からずぶ濡れ。

12月 茅刈り やさと茅葺き屋根保存会の協力を得て、つくば市の高エネルギー加速器研究機構(KEK)の茅を刈り取ることができた。約3畝。現代の茅場だ。足りない分は霞ヶ浦のシマガヤを購入。

1月 茅葺き 筑波山東麓の石岡市から来てもらった茅手さん達はもうすぐ80歳の人ほとんど。出来上がった屋根を見ていると、職人さん一人一人の顔とともに、慣れない作業に懸命に取り組んでいた入澤さんの顔が思い出される。(里山建築研究所 上野弥智代)

折々の俳句をアルバムに
立野に住む吉江八千代さんは、毎朝の散歩が日課。そして四季折々の山麓の景色を俳句にしてきた。そんな母の俳句に娘さんたちが着目。母に写真も撮るように頼み、句と合わせ、「こころのささえ」と題したアルバムにまとめた。

「田植えが済んで、ホトトギスがくると夏だなあと感じるの」という八千代さん。母と娘で作ったアルバムはすでに5冊にもなった。

▲薄霧の山幾重にも時鳥 八千代V

編集を終えて.....
喜んで試食した「たんぼぼスープ」。苦くて胃にきいたのは私だけ。漢方では健胃剤(ストレス)続きで胃が弱っているようで、「すそみ」の里山は山桜から新緑へ。田んぼに水が入ると、本当に美しい。この地では、古いものと新しいものが出会って何かが生まれていくようで、興味が尽きません。編集会議、どなたでもご参加ください(一)

積するこの地を情報発信の大きな舞台だと位置付け、腰を落着けて、つくばの歴史、食、芸能をより深く研究したいと考えています。いわば書物の置き場所探しから始まった話ですが、今では周囲の友人達が盛り上がり、あそこはこう使いたいなど、各々思い巡らしているよう。「自分のものであって、自分のものでない。不思議な気分なんだよ」と首をかしげる入澤さん。「あなたは地域の大事な宝物をあずかって、公共建築をつくるのよ」と友人。

先日は、茅葺きの棟仕舞が仕上がったことを祝うくし祭りが行われ、遠方からの友人達やご近所の方も沢山みえました。「縁あってこの地にきたけど、さらに集落の方と縁をもち、(都会一辺倒の)流れを変えていきたい」という入澤さんですが、もう一つの夢は今や茅葺きの片隅に追いやられてしまった本たちの「背

きりとびぐしの切り口)

表紙を並べて見ることです。

* 神郡の里山建築研究所は、筑波大の安藤邦廣教授と共に、地域の古民家や集落を研究し、住まいやまちづくりに取り組んでいます。この「六所の家」の設計監理も行いました。(里山建築研究所 居島5/19(土)に開所のお披露目会を行う予定。15:30~16:00 舞踏家の森繁哉さん(東北芸術工科大学教授)のお祝いの舞踏。是非見いらして下さい。TEL029-867-1086まで

「すそみろく」は、都市と農村をむすぶ絆ゆいへくろプロジェクトの一環として、三井物産環境基金から一部助成をいただいています。

蘇った「六所の家」

たんぼぼのクリームスープ

材料(2~3人分)
たんぼぼの葉 40g たまねぎ 1/2個
水カップ2 生クリーム 50cc
スープの素 小さじ1 塩、こしょう 少々

作り方
たんぼぼの葉は飾り用を残して、さっとゆでて水にさらしておきます。たまねぎはうすくスライスし、バター大さじ1でよく炒め、水とスープの素を加えて煮ます。あら熱をとったあと、たんぼぼの葉をしぼったものと一緒にミキサーにかけてこします。こしたものを鍋に移して温め、生クリームを加え塩、こしょうで味をととのえます。器に入れ、たんぼぼの葉と花びらを散らして浮かべます。

たんぼぼの春サラダ

材料
たんぼぼの葉と花 レタス1/個
きゅうり 1本 ロケットやチャービルなどハーブを適宜 レモン1/個
グラニュー糖 少々

作り方
たんぼぼの葉は冷水でよくさらしておきます。野菜とハーブは食べやすい大きさに切って冷たくしておきます。器に盛ってレモン汁をかけ、グラニュー糖を少しふり、上にたんぼぼの花を飾って出来上がりです。

料理：上野節子(小沢地区)

すそみ点滅交差点

たんぼぼ

これがひとつの花なんです!

新旧の出会いが隠しテーマのコーナー、今回はたんぼぼの話です。春の花の代表、たんぼぼですが、秋や冬にたんぼぼの花を見て驚いたことはいくつか。実は、これはセイヨウタンポポ、明治時代にヨーロッパから入った花です。

ロッパからやって来てすっかり日本にすみつき、都市部を中心に勢力を増大しています。一方、関東地方に元々あるたんぼぼはカントウタンポポで、春にだけ咲くのですが、最近あまり見られなくなっています。た。セイヨウタンポポは造成地などが改変した土地にいち早く入って広がるので、都市化のパロメータともいわれています。カントウタンポポを追いやっていくのは、実は人なのです。農村地域にはカントウタンポポが健在で、出会うとうれしくなります。最近、両種の雑種がセイヨウタンポポに代わって増えているそうです。(田中ひとみ)

すそみスケッチ

アルバムを手にする吉江さん母

すそみサポーター

敬称略

つくば市神郡 神郡区長	櫻井誠
つくば市神郡	飯田猷子
つくば市白井	榎田きよ子
つくば市白井	吉江八千代
つくば市白井	菊地つよい
つくば市白井	稲葉誠二
つくば市白井	鮎川洋
つくば市白井	森田禮子
つくば市北条	井坂敦實
つくば市筑波	齋藤靖夫
土浦市西根 筑波大学教授	出口正義
つくば市神郡	普門寺
つくば市神郡	里山建築研究所
つくば市花畑 (株)中野	中野秀彦
筑西市横島 細井建築設計室	稲田耕二

他1名の方から 協賛をいただいています。

協賛会員「すそみサポーター」 募集中! 一口3000円

デザイン:小沢陽子(漆所地区)

私たちが応援してます!